

ベストピア  
**Bestopia**

小原 靖夫

ベストピアは小原靖夫の個人誌です。

平成二十三年六月  
第二九二号

## 原発のないオーストリア

### (1) ウィーン大好き

ウィーンが大好きになって、このところ年二回のペースで訪れています。大都会ですが、空気も良く、青空があり、公共交通機関の利用がとても便利で、車でなく、徒歩で好きな所に、好きな時間に行ける、外国にいるとの緊張感もなく、又、スピードに追いかけられるような騒がしさもなく、落ち着いて、音楽、絵画、歴史に親しむことができる。心理学に興味が湧いてくるとフロイト記念館もある。感性も理性も飽きることがない魅力が豊に溢れている街です。

人口は150万位で京都、神戸と同じです。京都とは姉妹都市になっています。ニューイナー・コンサートは全世界の実況放送されることも有名です。

ウィーンはオーストリアの首都です。

### (2) オーストリア概観

オーストリアはEU内で、周りは8ヶ国に囲まれており海の無い国です。

ドイツ(17) チェコ(6) スロバキア(4) ハンガリー(4) スロベニア(1) スイス(5) イタリア(0) そしてリヒテンシュタインです。

面積は日本の22%というアルプスの小さな国です。人口は836万人(東京都23区とほぼ同じか少し多い)、人口密度は99/平方キロ(日本は399/平方キロでオーストリアの4倍)、国民一人当たりのGDPは2010年IMF調べによると\$39,634で世界10位です。日本は\$33,805(24位)、

ドイツは\$36,033(19位) 中国は\$7,519(93位)等、詳細は下表にまとめました。小さな国ですが物心共にとても豊かです。

国民一人当たりの年間消費電力量(家庭用)は、1,569/キロワット時で、日本は2,204/キロワット時ですから、約30%少ないです。

主な産業は自動車、鉄鋼ですが大企業はなく、ドイツ企業の下請的な役割を果たしていますが、何と言ってもウィーン、チロル、ザルツブルグ等の観光産業は群を抜いており、失業率も他のEU諸国と比較しても低くなっています。

### (3) 原発の無いオーストリア

#### IAEAの本部はウィーン

オーストリアには一基も稼働していません。無くなっているというのが正確な表現です。

日本と同じように1960年代後半、政府と電力業界では原子力発電への志向が高まり、1971年には原子力発電の導入が決定され、翌年ウィーンの北約60kmのツヴェンドルフで着工され、1978年11月に完成、いよいよ1号機の稼働がなされました。その可否を問う国民投票がなされ反対50.47%(すれすれの過半数)で稼働が見送られました。それはスリーマイル島原発事故(1979年)の1年前のことでした。

1980年代をかけて核燃料は全て搬出が終わっています。一度も稼働しなかったこの原発の総工費は約6億5000万ユーロ、今日までの維持費総額は10億ユーロに上るといわれます。

1999年には連邦憲法律に「オースト

リアで核兵器を製造したり、保有したり、実験したり、輸送したりすることは許されない。原子力発電所は建設してはならず、建設した場合にはこれを稼働させてはならない」の項が盛り込まれ反核の誓いを不動のものとしています。

([webronza.asahi.com/global/](http://webronza.asahi.com/global/))

ところが、ヨーロッパは陸続きで、オーストリアは8つの国と接しています。イタリアとリヒテンシュタイン以外の国は原発を持っていて、特に頭がいたいのがチェコのテメリンの原発(ウィーンに北約200km)。

チェコが共産政権時代から操業している古いプラントで安全設備には大きな不安があるということです。両国間の廃止ー継続問題をめぐっては意見がことなり両国間の対立要素になっており緊張関係にあります。

EU領内で147基あり、しかも囲まれた状態で原発がちらばっていますから、存在することへの危機感と自国の手を離れたところの見えない、手の届かない、不安な管理に国民が恐怖感をまして原発には敏感になっているのも理解できます。

この首都ウィーンにIAEA(国際原子力機関)の本部があります。オーストリアはEU内14ヶ国、143基全部に対して「ストレステスト」(天災やテロ、航空機の直撃を想定した原発の耐性審査)を要請、複雑な利害関係のある中、5月26日にはEU統一の検査項目を作り、国境に関係なく広がる放射能被害に対し、各国の権限を越えて対処することになりました。  
(2011/06/01より実施)

#### (4) ドイツでは盛んな反対デモ、 2022年に原発脱却

ドイツでは福島原発事故以来大規模なデモが各地で繰り広げられ、私が滞在していた5月11日～14日にもベルリンで10万人規模のデモがありました。「あなたも、参加

しなさい」といわれているようで、反対でありながら素直に参加出来ない自分に直面し、情けなさ、すまなさを感じ、手を振つてごまかした形になりました。

ドイツ全体では100万人規模のデモになることもあるということです。国民がチェルノブイリの原発事故をよく知つており長期に渡る影響の怖さをよく学んでいます。

これらの運動の結果、①原発の運転期間を36年と定め(世界の法定耐用年数を下回る)②遅くとも2022年迄に原子力発電から脱却するという目標(しかも、実現は前倒しの努力をする)を立てることが決定されました。ドイツは現在、原発が17基あり、電力供給量の約23%を原子力発電に依存していますが、これを風力などの再生可能エネルギーに構造転換するとのことです。

今回福島原発の由々しき惨状を見てか各国とも決定が速いようです。

#### (5) スイスも廃止の方向

5月25日、5基ある原発の寿命を迎える2034年までに、原発の安全性が保てる間に順次廃炉にし、新規建設はしないとの国家目標を決めました。ドイツに続き「脱原発」政策に舵を切ったわけです。法定減価償却を繰り上げているところが日本と著しくなるところは資本主義の原理の違いによるものです(スイスの原発依存率は約39%)。

ロイトハルト環境エネルギー相は「フクシマが今後数十年のエネルギー戦略を変えた」と話しています。

欧洲各国は1986年4月のチェルノブイリの原発事故で大量の放射線が上空を襲い、その記憶を忘れていません。特に放射能被爆は10年単位遅れで現れますから数千km離れている「フクシマ」も他人事ではないという考えです。私があつた初老の男

性は「地球は回っているから大気は循環しこちらにも必ずやってくから、他人事ではない。広島、長崎を経験した日本人なら尚更でしょう」と少々皮肉混じりにいってきました。

### (6) 我ら日本人は

「想定外」と言う言葉は役人が責任を逃れるための言葉ではなく、自然又は創造主を無視して、彼らの言う又は彼らの基準(経済合理性優先)をたまたま超えためったに起こらないことを代弁する言葉として用いられています。儲かることなら、刑務所に入つてもするという賤民資本主義の典型的な考え方です。官民一体となって認め合っているのですから何も知らない(しらしむべからず)国民が被害を受けるのです。

オーストリアのような国民投票のような制度もつくらない、又はつくらさないような議会運営と政治に無関心になっていった一般の国民にも幾ばくかの責任はあります。

外国の対応は人民の健康を第一に考えています。オーストリアは3月号のベストピアにも記しましたように、震災発生の2日後大使館業務を大阪に移すと発表しました。

レベルが7に引き上げられてからは、来日が約束されていたオーケストラ団員の意見が一致せず、今もって中止のコンサートが多くあります。「ウィーン少年合唱団」は放射能の子供への影響を考慮し、日本へのツアーチを中止しました。これは当然の決断です。私たち日本人は毎日TVを通じてよく理解できないシーベルトの魔術に掛かっています。「どうやら、安全らしい」という善人的な願望で政治家の内紛や遅い支援活動にも耐えているのです。

放射能は長期的観点に立って「今、ここ」を慎重に対処せねばなりません。これでやっと上がり始めていた合計出生率が再び下がり始める恐れが出てきました。これに符

号するかのように携帯電話の長期使用についての警告が出始めました。両者とも子供たちへの影響を無くするようにせねばなりません。少子化傾向への転換にでもなつてしまふと将来に向かって重大な問題になると受けとめる必要があります。

現場では数百人の方が命を懸けて収束にむけて尽力してくださつており、その姿を想像して、ぞつとしながら、済まないと思いつつ、「速く、お願ひいたします。」と声をかけざるをえません。人数は絶対的に足りないのは私にも判ります。千人単位の従事者がいないと犠牲者がでるばかりです。やつと日本製のロボットが初陣しました。頑張ってもらいたいです。

今、政治家の意識はどこにいっているのでしょうか?現場の方々をねぎらい励まし早期の収束を実現していただきたいと願います。出来ない理由を探すのではなくやるのです。

### (7) イタリアでも脱原発へ

6月13日イタリアでは原発再開の是非を問う国民投票が実施され、「反対する」が94%というう絶対多数の結果となった。

再開推進派のベルルスコーニ首相は『私たちは、原発と永遠にサヨナラしなければならない』と白旗を揚げたとの報道がありました。

日本でも「原子力発電を段階的に減らして将来はやめる」が74%、14%が反対しているとのこと。——朝日新聞世論調査

### (8) 放射能は世界を飛び回る

フランス・パリの友人から次のような便りが届きました。

「1986年4月26日私は学生としてパリにいました。フランスは風向きに守られて放射能は飛散してこなかったと天気予報で報道していたのはよく覚えています。野菜もくだものも水もいつもと変わりなく消費していました。25年発った今になってそれが嘘であったことがクローズアップされています。パリにいた私もしっかり放射能をかぶっていました。国を問わず、大惨事の中に明らかにされない事実は絶対にあると思います。南仏やコルシカ島などフランスのあちらこちらで甲状腺癌や畸形の多発、いまだに放射濃度が高く耕作不能な土壤など（もちろん国は因果関係を認めませんが）が報告されています。」

6月13日、佐賀県唐津市でも松葉から放射性物質セシウムが検出されたと県が発表しています。フクシマからは1100km離れています。我が国もそろそろ長期志向しないと本当に将来が大変なことになることは素人の私にも明白です。

#### （9）世界の原発数 依存率比較表

次頁に、「世界の原発数」と「依存率比較表」を作成してみたので掲載いたします。

小原 靖夫

## 世界の原発の数

国名	現保有数	建設中数	建設予定数	合計
アメリカ	104	1	32	137
フランス	58	1	1	60
日本	54	2	11	67
ロシア	32	10	24	66
韓国	21	5	11	37
インド	20	5	58	83
イギリス	19	0	10	29
カナダ	18	0	10	28
ドイツ	17	0	0	17
ウクライナ	15	0	3	18
中国	13	27	57	97
スエーデン	10	0	7	17
スペイン	8	0	0	8
ベルギー	7	0	0	7
台湾	6	2	2	10
チェコ	6	0		6
スイス	5	0		5
スロバキア	4	0		4
ハンガリー	4	0		4
フィンランド	4	0		4
ルーマニア	2	0		2
ブルガリア	2	0		2
メキシコ	2	0		2
ブラジル	2	0		2
南アフリカ	2	0		2
スロベニア	1	0		1
アルゼンチン	1	0		1
合計	437	53	226	716

## 依存率比較表

国名	合計 (TWh/年)	原子力発電	依存率	一人当たりGDP
アメリカ	4,369	282	6.45%	47,284
中国	3,457	585	16.92%	7,519
日本	1,082	258	23.84%	33,805
ロシア	1,040	163	15.67%	15,837
インド	830	114	13.73%	3,339
カナダ	651	94	14.44%	39,057
ドイツ	637	148	23.23%	36,033
フランス	575	439	76.35%	34,077
ブラジル	463	370	79.91%	11,239
韓国	446	151	33.86%	29,836
イギリス	389	52	13.37%	34,920
イタリア	319		0.00%	29,392
スペイン	314	59	18.79%	29,742
メキシコ	259	10	3.78%	14,430
オーストリア	257		0.00%	39,634
台湾	238	41	17.23%	35,227
イラン	215		0.00%	10,865
サウジアラビア	204		0.00%	23,826
トルコ	198		0.00%	13,464
インドネシア	149	12	8.05%	4,394
タイ	147		0.00%	9,187
エジプト	131		0.00%	6,354
オランダ	108	4	3.89%	40,765
パキスタン	92	28	30.43%	2,791
コンゴー	75		0.00%	4,427
ベトナム	73		0.00%	3,134
フィリピン	61		0.00%	3,737
バングラデッシュ	35		0.00%	1,572
ナイジェリア	21		0.00%	2,422
エチオピア	4		0.00%	1,010
合計	16,839	2,810	16.69%	569,319
全世界	20,261			